

「能登ステージ高校生交流会」

1 趣 旨

地域探究プログラムオリエンテーション合宿での学びを深めるとともに、他校の高校生同士が交流し、互いに刺激し合うことで、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付けるきっかけとする。また、同年代の仲間を増やすことで、多様な価値観に触れ、人としての在り方を考えるなど、新たな価値を創造する高校生の育成を目的とする。

2 日 程 等

(1) 期 日 令和6年12月7日(土)～12月8日(日) 1泊2日

(2) 参加者 石川県立鶴来高等学校 第2学年 3名  
石川県立羽咋高等学校 第1学年 2名 合計 5名

(3) 講 師

恩田 雅博(国立能登青少年交流の家 企画指導専門職)

酒井 伸大(国立能登青少年交流の家 企画指導専門職)

魚川 友康(国立能登青少年交流の家 企画指導専門職)

(4) 日程及び研修内容

12月7日(土)		12月8日(日)	
13:00～13:30	集合・受付	6:00～7:00	起床、清掃
13:30～14:00	能登ステージ開会式	7:00～7:20	朝のつどい
14:00～15:30	発表スキル向上講座① ～私、こんなことを考えています～	7:20～8:00	朝食(食堂) 宿舎点検・荷物移動
15:30～16:00	休憩・ベッドメイキング	9:00～11:00	発表スキル向上講座③ ～昨日より今日の私～
16:00～17:30	夕食作り(鍋作り)	11:00～13:00	昼食作り(カレー作り)
17:30～19:00	夕食・片付け・休憩	13:00～13:30	昼食・片付け
19:00～21:00	発表スキル向上講座② ～カタリバ探究車座トーク～	14:00～	振り返り 閉講式・解散
21:00～22:00	入浴		
22:00～	就寝準備・就寝		

① 発表スキル向上講座①～私、こんなことを考えています～

参加者が自ら取り組んでいる探究活動を発表する。また、昨年度、地方ステージに出場した先輩の発表を視聴し、よりよい効果的な発表について考える。

② 夕食作り(鍋作り)

限られたお金で材料を購入する。また、役割を分担し、限られた時間の中で鍋を作る。

③ 発表スキル向上講座②～カタリバ探究車座トーク～

観点別 S-T 分析を活用し、参加者が各々の発表を分析する。発表の内容の偏り等を視覚的に捉え、相手に効果的に伝える内容を検討し、改善する。

④ 発表スキル向上講座③～昨日より今日の私～

前日に学んだことを生かして、発表原稿を作成する。また、発表後は、参加者が互いの発表について、良い点及び改善点を伝え合う。

⑤ 昼食作り（カレー作り）

限られたお金で材料を購入する。また、役割を分担し、限られた時間の中でカレーを作る。

### 3 成果と課題

本事業に参加した5名の生徒から、能登ステージでの学びについて振り返った。

(1) 発表スキル向上講座での学びについて（生徒の感想・記述より）

- ・自分の発表の改善点を知ることができた。1回目と2回目では、発表内容の変化の大きさを実感することができた。
- ・探究活動は今まで自校で見比べていたけど、他校の人から意見をもらうことができて、とても貴重な機会だと思った。
- ・他の人の発表を聞いたり、たくさんのアドバイスをもらったりして、自分の成長を感じることができた。
- ・発表に関する的確なアドバイスをもらい、資料の作成が上手く進んだ。



【講座③発表原稿修正活動】

(2) 食事作り等の交流について（生徒の感想・記述より）

- ・他校の人との仲が深まったし、何より楽しかった。
- ・買い物や食事作りでみんなと仲良くなることができた。
- ・食材を自分たちで相談しながら買うことや、野菜の切り方を話し合っって鍋を作ることは初めての体験だった。
- ・みんなで役割分担してご飯を作ることは楽しかったし、みんなで力を合わせて作った料理はとてもおいしかった。



【食事作り：カレー】

(3) 運営面における成果と課題

① 成果

- ・参加者が5名で少人数であったこともあり、一人一人に寄り添いながら、的確な指導や助言をすることができた。
- ・地方ステージを見通して参加した生徒が、発表スキル向上という視点でモチベーションをもって取り組み、発表用原稿の大枠を作成することができた。
- ・買い物や食事作りなどの活動が参加者同士の距離を縮めた。料理を作り際には参加者同士で会話が多くうまれたため相互の交流を深めることができた。

② 課題

- ・探究活動の発表においては、探究活動の実践活動が少ない場合は、現状や課題などの発表内容が多くなる。探究活動においては、「実践」から見える自分の考えを再構成したり、見出ししたりすることができるよう実践の場面での助言をしていく必要があった。